

「3.11における4点組作」

2013年から2015年にかけて春陽展に3.11をテーマとして三点組で大作を発表してきたが、その4年前の2009年に3.11に関連する作品をすでに描いていることに気付いた。130号の「冬の昼下がり」である。

福島に学生時代の親友がいたこともあるが、私と福島には大切なつながりがある。田舎をもたない私にとって豊饒で限りなく広がる大地やのんびりとして幸せそうな人々が好きでよく福島へ出掛けた。3.11の福島原発事故の放射能は風にのって北東に流れ、宮城県との県境の靈山（りょうぜん）という岩山で止まった。屏風のような岩山の麓の村は壊滅的な汚染を受けたが、親友の実家は岩山の反対側であったため、最悪の事態は免れた。この岩山を描くため靈山の麓の村に何度か泊まったことがあった。

そのような縁で福島原発事故は私にとっても心痛の思いであった。「冬の昼下がり」を描きながら、原発事故が起りこの楽園がなくなりませんようにとの思いや、いや事故の予感みたいなことがあったのだと今は思っている。

これ以上の便利な生活や身の程を超えた豊かさより国民のほとんどは、ささやかでも平穏で安全に生活出来る環境こそ願っているのだと思う。そんな願いを普遍的なかたちにしたのが「冬の昼下がり」である。夫や子供を送り出し、家事を終えてホッとしている一日の幸せな空間を表現しようと思ったのである。故に今後、機会があれば4点と一緒に“3.11”として発表したいと考えている。

堀内貞明